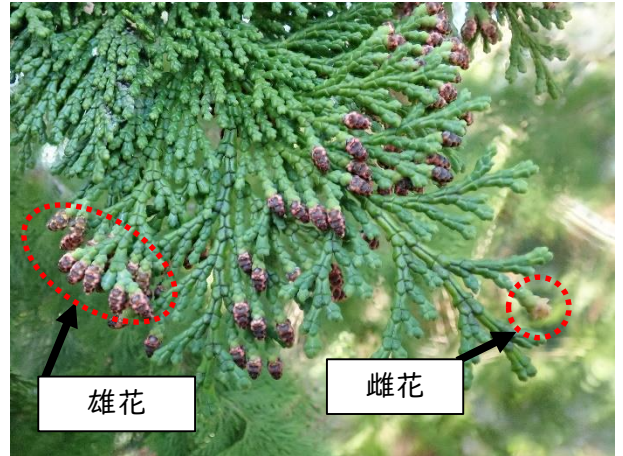


## 植物多様性センターの「カマクラヒバ」

カマクラヒバはヒノキの矮性園芸品種です。原種のヒノキよりも枝が多く分枝し、成長が遅いため、庭によく植えられています。雌雄同株で花期は3～4月、枝の先端に一個ずつ花を付けます。雄花は紫褐色で数が多く、すぐ見つかります。対して雌花は目立ちにくい色で数も少ないのでじっくり観察しないと見つけられないかもしれません。カマクラヒバは原種のヒノキより枝が低いところにあるので、花や葉の観察にはおすすめです。



奥多摩ゾーン石灰岩地エリアの西側に列植されている。



緑色の葉の中で目立つ雄花と目立たない雌花。



雄花：鱗片が開いて沢山の花粉を放出する。



雌花：胚珠から受粉滴という液体を分泌して花粉を集める。